

北村朋幹さん & 山根一仁さん & 上野通明さん 応援レポート

トッパンホールニューイヤーコンサート 2016年1月8日(金) トッパンホール

新春を飾るアンサンブルコンサート

「トッパンホール ニューイヤーコンサート」、新春初め、凝った趣向の企画が提供されることで知られており、毎年楽しみに通うというファンも多い、人気のコンサートである。

今年のプログラムは、トッパンホールが推す若手アーティスト6名による室内楽。
6名のうち、北村さん、山根さん、上野さんと財団器楽部門奨学生3名が出演。
瀧村依里さん(ヴァイオリン)、原麻理子さん(ヴィオラ)、島田彩乃さん(ピアノ)との共演である。
この6名は、これまでも、何度も共演している、いわば気心知れた仲間たち。新春に華やかな演奏を聴かせてくれるのが楽しみだ。



会場のトッパンホールは、凸版印刷株式会社が創立100周年を記念して2000年にオープンさせたコンサートホール。クラシック音楽を中心に、多様なコンサートが開かれている。公演客席はゆったりとした贅沢なつくり。ホールの構造には、音楽を楽しむための技術が結集されており、その一つが優れた遮音性能といわれている。ホール外側からの音の進入を防ぎ、演奏される音楽だけを存分に楽しむことができるとのこと。演奏はもちろん音響にも興味がわく。



清らかなエネルギー溢る
一期一会の熱きニューイヤー!

山根一仁
Kazuhito Yamane, violin

島田彩乃
Ayano Shimada, piano

瀧村依里
Eri Takamura, violin

北村朋幹
Yutaka Kitamura, piano

原麻理子
Mariko Hara, viola

上野通明
Mafumi Ono, cello

トッパンホール アンサンブル Vol.9

New Year Concert

トッパンホール ニューイヤーコンサート 2016

ジュスタコーヴィチ: ピアノ三重奏曲第2番 未知調 Op.67
Shostakovich: Piano Trio No.2 in E minor Op.67

ヤナーチェク: 弦楽四重奏曲第1番 (クロイツェル・ソナタ)
Janáček: String Quartet No.1 "Z pískalův domů" Královské náměstí

ブラームス: ピアノ五重奏曲 へ短調 Op.34
Brahms: Klavierquintett F-Moll Op.34

2016年1月8日(金) 19:00開演 トッパンホール
Friday 8 January 2016, 19:00 TOPPAN HALL

チケット料金 | 5,500円 / 学生2,500円 (注: 高校生) | チケット発売 | 2015年9月25日(金) [全席: 9時19時(土)]

主催: トッパンホール 特別協賛: 江刺産建協

15th
TOPPAN HALL
1941-2016

新年の幕開けは、じっくり聴かせるピアノリオから



発売開始後早々にチケットが売り切れたという人気公演、会場はすでに熱気に包まれている。

最初の曲は、北村さん、山根さん、上野さんによるショスタコーヴィチの「ピアノ三重奏曲」。渋く重い曲調は、「ニューイヤー」の幕開け曲としては、なんとも個性的。

3つの楽器がバランス良く絡み合い、濃密で難解な曲を、調和感のもと見事に弾きあげてくれた。

実は1楽章中にハプニングも。

山根さんのヴァイオリンの弦が切れてしまったのだ。あわてることなく何事もなかったかのように、通常と異なる指遣いにて演奏を続ける山根さん、状況に気付き、何度も山根さんの方に視線を送る北村さん、状況を乗り越えるべく、さらに淡々と弾き込む上野さん・・・。

第1楽章を終え3人は一度舞台袖に。弦を張り直して、ふたたび登場。一礼し、第1楽章からの再演奏が始まった。

第1楽章から最後まで、緊張感を持続して演奏すべき楽曲であることからはからい。ハプニングにもまったく慌てることなく、互いを信頼し、落ち着いて状況を克服する姿は頼もしいかぎり。



次の曲は弦楽の4人による、ヤナーチェクの弦楽四重奏・クロイツェル・ソナタ。こちらでもまたシリアスな雰囲気漂わせる曲。息もぴったり美しい調べを聴かせてくれた。

休憩をはさんで、ラストのブラームス、弦楽の4人と、島田さんのピアノで。

一昨年にトッパンホールで披露され、大好評であった公演の同メンバーによる再演である。情熱的に、叙情的に、ゆたかな響きを奏でてくれた。



<コンサート概要>

◆プログラム

ショスタコーヴィチ:ピアノ三重奏曲第2番
ホ短調 Op.67

ヤナーチェク:弦楽四重奏曲第1番
《クロイツェル・ソナタ》

ブラームス:ピアノ五重奏曲へ短調 Op.34

◆出演

北村朋幹(ピアノ)

山根一仁(ヴァイオリン)

上野通明(チェロ)

瀧村依里(ヴァイオリン)

原麻理子(ヴィオラ)

島田彩乃(ピアノ)

見事な一体感。難曲に真摯に立ち向かう



終演後の楽屋にて。北村さんは既に着替えてしまい、素敵な衣装をキャッチできず残念

終演後、楽屋にて話を聞いた；

一本日の選曲。すごい曲から入りましたね；
「…ショスタコーヴィチのピアノ三重奏曲はホールから『この曲を』ということでのチャレンジでした」
「非常に特別な曲です。もちろんイメージはたくさんありますが、こちらがイメージを持って曲にアプローチするというよりも、曲が演奏者をその世界に連れていってしまうくらい強烈な曲なんです。尊敬している曲ですが、こんな曲ばかり弾いてはいただけません。それくらい強烈です。なにかをむしばむ曲なんです。この曲の成り立ち(ユダヤ人の迫害、ソ連、スターリン、音楽を禁止されていた人が、こういう音楽を書いて生き延びた…)を考えれば、おいそれとは触れられない、これから、この作品に触れるのだという自覚を持ち、かなりの気構えを持っていないと弾けない作品です」
(北村さん)



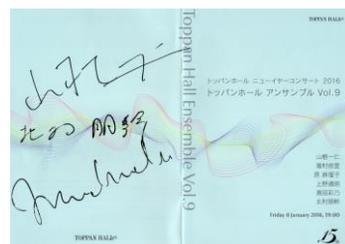
ピアノ五重奏のメンバーのみなさん

ーじっくり聴かせる曲ばかりでしたね；
「…プログラムの3曲とも大変な曲で、さすがトッパンホールの企画だなと」
「最初の曲、ショスタコーヴィチは、曲を作り上げていくうえで北村さん、山根さんと何度も話し合い、とてもいい勉強になりました」
「…(2曲目)ヤナーチェクは9月に武生音楽祭で弾いて以来でした。メンバー構成が異なる(山根さんは武生でも一緒にでした)ことにより曲の解釈も変わり、こういうこともできるのかと楽しかったです」
「…3曲目のブラームスは、やはりじっくりくる曲です。重たい曲が続いて疲れてはいたのですが、弾き切りました」(上野さん)

ー3つの楽器の絡む感じが素敵でした…；
「遠慮はしないがバランスをとるというスタンスです」
「…究極の理想は、3人いるけど、誰が弾いているかわからない。ピアノトリオという一つの楽器のように聴こえることです。きゅっと集まって一体化というのがひとつの理想です」
(北村さん)

お互いがお互いをリスペクトし、絶妙のバランス感で聴かせる北村さん、山根さん、上野さんのトリオ、『…この3人では、また今後も弾いていきたいね』と話しているとのこと。ぜひに。

北村さん、山根さん、上野さん、素敵な演奏でした。今年もまた、たくさんの美しい音色を聴かせてください！



【コンサート・フライヤー(表)】

清
廉
な
エ
ネ
ル
ギ
ー
漲
る
一
期
一
会
の
熱
き
ニ
ュー
イ
ヤー
!

山崎一仁
Kazuhito Yamane, violin

島田彩乃
Ayano Shimada, piano

滝村依里
Eri Takimura, violin

北村朋幹
Tomoki Kitamura, piano

原麻理子
Mariho Hiru, viola

上野通明
Michiaki Ueno, violin/cello

トッパンホール アンサンブル Vol.9

New Year Concert

トッパンホール ニューイヤーコンサート 2016

ショスタコーヴィチ：ピアノ三重奏曲第2番 ホ短調 Op.67 *Shostakovich: Piano Trio No.2 in F minor Op. 67*
ヤナーチェク：弦楽四重奏曲第1番《クロイツェル・ソナタ》 *Janacek: String Quartet No.1 "Z pevného nervy: Křižovníkova sonata"*
ブラームス：ピアノ五重奏曲 へ短調 Op.34 *Brahms: Klavierquintett e-Moll Op.34*

2016年1月8日(金) 19:00開演 トッパンホール
Friday 8 January 2016 19:00 TOPPAN HALL

チケット料金 | 5,500円 / 学生2,500円 [全席指定] チケット発売 | 2015年9月25日(金) [会員: 9月19日(土)]

主催: トッパンホール 特別協賛: 鹿島建設

15th
TOPPAN HALL
since 2001

【コンサート・フライヤー(裏)】

毎年、素晴らしい期待が寄せられているトッパンホール ニューイヤーコンサート。新年早々、心ななにグリーグがプログラムでいいのだからと意気込みながらも、おせち料理ばかり食べ続けていると刺戟的なものを食べたくなくなるもんなら、上げじりものが、ちぞがそのままだいていなくて、いすでは滑しきりしてくだっているお客さまも多いので、こちらもそのついでに企画を練っている状態だ。

ここ数年、そんなニューイヤーコンサートの核となっているのは、いきのいい若手たち。そう、トッパンホールが確かに自負するもの一つとして、若手アーティストとの深い交流がある。ホールとアーティストという通常の付き合いを超えて、お互いの深部に分け入り、音楽観を刺激し合いつながり築かれていっていると言ってもいいだろう。今回は、そんなホールにとっても貴重なアーティスト達をメンバーに迎え、トッパンホールアンサンブル公演という形でプログラムを考えた。

ブラームスのピアノ五重奏曲は、2013/14シーズンの最終公演、2014年8月の島田節乃の(ランタタイム コンサート)の曲とメンバー。「この演奏会、無料の(ランタタイム コンサート)ではなく、通常の主催公演でじっくり聴きたい、再演を願うというお客さまの声に応えたものだ。メンバーは全員、基志(ランタタイム コンサート)の主役を領り、その後主役公演に出演しているメンバー達。

ショスタコーヴィチのピアノ三重奏曲は、いまだこの時期にどうしても山根一仁と辻村朋輝でやってきたかった作品。まったく異なる音楽性の持ち主ながら、お互いイステートし、不思議とハマり合うこの二人が共通して遊ばれるショスタ



コーヴィチの傑作。成長著しい上野道明のチェロと共に、ピアノをまだから許される激しい個性のぶつめ合いに期待したい。

この個性に負けたら自滅の時は、さらに強い個性を放つマーチエックの(クワイフェル・ソナタ)を選んだ。3つの遺則を世界をどう描き分けるのか、彼らの才情とセンスに新たな刺激が与えられれば幸いである。

ちなみに、北村をのぞく5人のメンバーで翌日、ソロ、デュオを中心としたニューイヤーらしいプログラムを、埼玉聖路子見学の「キラリ☆ふじみ」公演として作ってみたい。セット券も用意したので、どちらにせよ併せてお楽しみいただきたい。彼らの個性の輝きと才の息吹をぜひ感じ取っていただけるに違いない。

トッパンホール アンサンブル Vol.8

トッパンホール企画制作部長 西谷 正史

New Year Concert

トッパンホール ニューイヤーコンサート2016

トッパンホール アンサンブルメンバーによるソロ、デュオ、室内楽公演(1月9日キラリ☆ふじみ公演)とのセット券のご案内

<p>キラリ☆ふじみ公演とのセット券</p> <p>座席数約3,000席のうちここ</p> <p>トッパンホールクラブゴールド会員 7,550円</p> <p>トッパンホールクラブレギュラー会員/一般 6,100円</p> <p>※セット券 2016年1月9日(土) 15:00開演</p>	<p>キラリ☆ふじみニューイヤーコンサート2016 トッパンホール アンサンブル公演 at キラリ☆ふじみ 山根一仁、麓村朋輝(ヴァイオリン)/原 麻理子(ヴァイオリン)/上野道明(チェロ)/島田節乃(ピアノ)</p> <p>2016年1月9日(土) 15:00開演 18:00開演(18歳以上限定)18:30開演</p> <p>■キラリ☆ふじみニューイヤーコンサート2016 ■キラリ☆ふじみニューイヤーコンサート2016 ■キラリ☆ふじみニューイヤーコンサート2016 ■キラリ☆ふじみニューイヤーコンサート2016 ■キラリ☆ふじみニューイヤーコンサート2016</p>
--	--

※トッパンホールチケットセンターのみでの販売となります。*手配地域に限り、販売終了しております。

トッパンホールチケットセンター 03-5840-2222
ウェブサイトからもお申し込みいただけます。 <http://www.toppanhall.com/>
チケットぴあ 0570-02-9999 / ローソンチケット 0570-000-407
東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

トッパンホールクラブ会員の皆様は、9,450円(税込)の特別価格でご覧いただけます。
*学生割引は原則ありません。*学生割引は、9,450円(税込)の特別価格です。
*若年者割引【学生割引】(19歳以下)は、9,450円(税込)の特別価格です。
*19歳以下、19歳以下(17歳以下)は、9,450円(税込)の特別価格です。
*学生割引、若年者割引は、9,450円(税込)の特別価格です。*学生割引、若年者割引は、9,450円(税込)の特別価格です。

交通のご案内

北戸線 新大塚駅南口(徒歩約10分) 池袋駅西口(徒歩約15分)
池袋駅西口(徒歩約15分) 池袋駅西口(徒歩約15分)
池袋駅西口(徒歩約15分) 池袋駅西口(徒歩約15分)
池袋駅西口(徒歩約15分) 池袋駅西口(徒歩約15分)
池袋駅西口(徒歩約15分) 池袋駅西口(徒歩約15分)

トッパンホール 〒110-0005 東京都文京区本町1-3-9 Tel:03-5840-2222 Fax:03-5840-1319
E:mail:info@toppanhall.com http://www.toppanhall.com

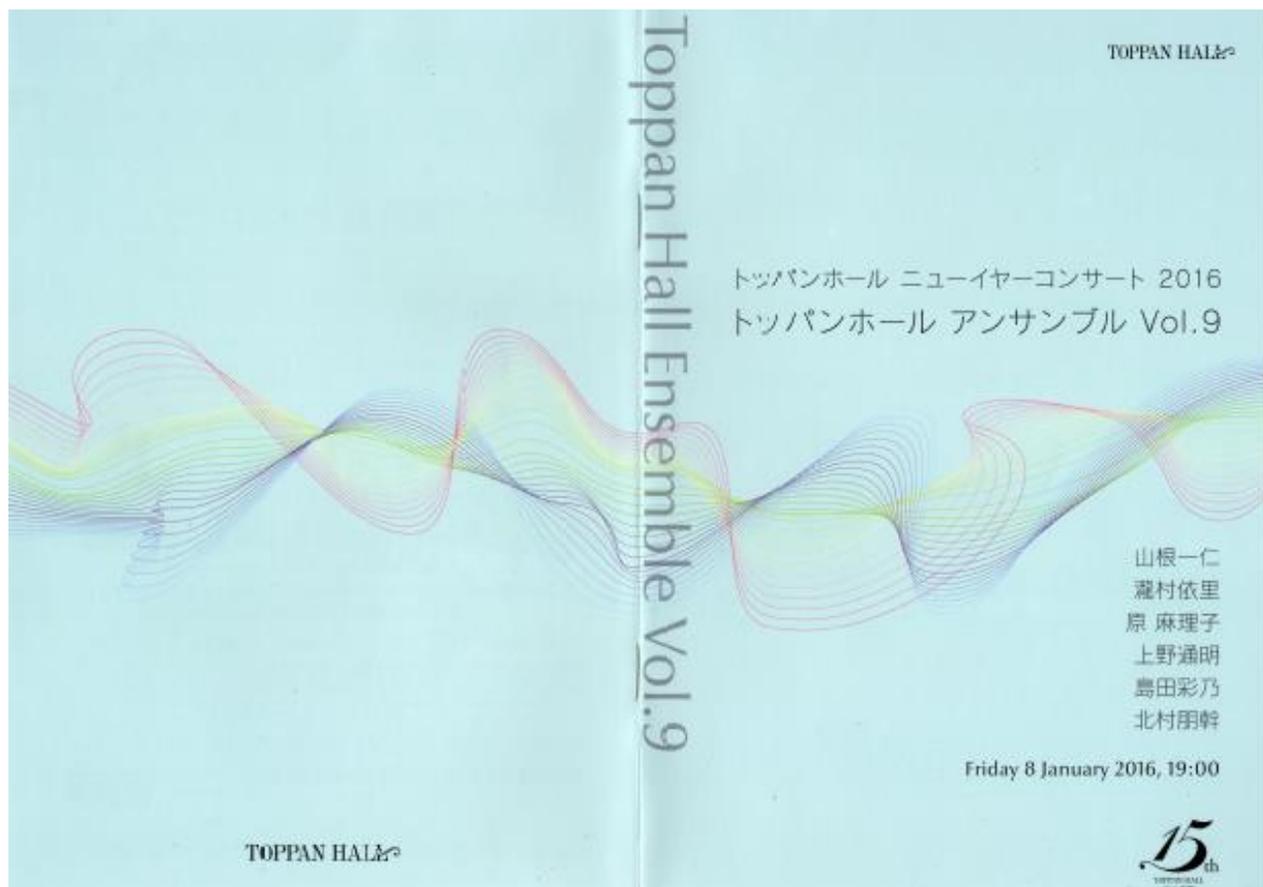
想像を、チカラに。

人が想像できることは、必ず人が実現できる。貴島の夢をづくりは、100年先を見つめています。

100年つくる島 鹿島

鹿島町役場〒700-8504 上野原町〒700-8504 鹿島町役場〒700-8504
鹿島町の発展、市民の幸せのために、鹿島町役場は、鹿島町民のために活動しています。 © TOPPAN HALL, 2015

【コンサート・プログラム(表紙・裏表紙・1～2ページ)】



プログラム

program

ショスタコーヴィチ：ピアノ三重奏曲第2番 ホ短調 Op.67
Shostakovich: Piano Trio No.2 in E minor Op.67

- I Andante - Moderato
- II Allegro con brio
- III Largo
- IV Allegretto

ヤナーチェク：弦楽四重奏曲第1番《クロイツェル・ソナタ》
Janáček: Smyčcový kvartet No.1 "2 podobné nové křesťovské sonaty"

- I Adagio - Con moto
- II Con moto
- III Con moto - Vivo - Andante
- IV Con moto (Adagio) - Finissimo

休憩
Intermission

ブラームス：ピアノ五重奏曲 へ短調 Op.34
Brahms: Klavierquintett f-Moll Op.34

- I Allegro non troppo
- II Andante, un poco allegro
- III Scherzo, Allegro
- IV Finale, Poco sostenuto - Allegro non troppo

主催：トツパンホール
特別協賛：豊田建設株式会社

【コンサート・プログラム(3~6ページ)】

プロフィール

profile



山根一仁 | ヴァイオリン
Kaufuku Yamano, violin

1985年生まれ。滋賀県。水野佐知恵、桐蔭学園大学リソリスト・ティピオマコース特待生として原田幸一郎に師事する。ミューン音楽演劇大学にてクリストフ・ボッペンに師事。
2010年第79回日本音楽コンクール第1位。11年第66回群馬県文化賞文芸・音楽賞最優秀若手受賞。12年若谷神子音楽文化賞奨励賞「Foundation for Youth賞」。ロームミュージックファンデーション、江副記念財団奨励賞。

これまでにNHK交響楽団、東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団国内主要オーケストラと共演。15年2月には、2015「6」音楽祭ジャズ・コンサートに出演した。また、15年6月に山田和樹指揮/ワーミンガム交響楽団、17年にはラプレフ指揮/日本フィルハーモニー交響楽団と共演予定。

トッパンホールには、12年に「ランタタイム コンサート」で初登場。毎年「エスポワール シリーズ」に選ばれ、過去2回の公演でいずれも圧倒的な演奏で観客の喝采を受けた。



滝村依里 | ヴァイオリン
Iri Takemura, violin

東京芸術大学音楽学部附属高等学校を経て同大学を首席卒業。同大学院修了。ロームミュージックファンデーションの奨励を経てウィーン国立音楽大学大学院修了。村田篤子、木田篤子、ジニャール・ブーレ、玉井英隆、岡山英、三ノノス・マイスル、エーラ・ヴェグナルツベルクらに師事。2005年第3回東京音楽コンクール第1位、08年第77回日本音楽コンクール第1位ほか受賞多数。(一財) 地域創造公共ホール音楽活性化事業助成アーティスト、平成25年度神戸市文化奨励賞、平成26年度府民共済音楽奨励賞。これまでに、関西フィルハーモニー管弦楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団等と共演。現在、読売日本交響楽団第2ヴァイオリン演奏者。

トッパンホールには、10年の「ランタタイム コンサート」以降、山根一仁の「エスポワール シリーズ」Vol.2で演奏アンサンブルの要として活躍するなど、たびたび登場している。



原 麻理子 | ヴァイオラ
Mariko Hara, viola

朝陽女子高等学校音楽科を経て2007年同大学を卒業。09年ジュネーブ音楽院卒業。13年ケルン音楽院卒業。現在、ケルンを拠点に幅広く活動している。13年ドイツで発売されたCDは、欧州各地のメディアで絶賛を受け、国内でも「レコード芸術」誌の特選盤に選ばれる。これまで国内外の著名な音楽家に多数出演するほか、2012/13シーズンには、ドイツのモーツァルト協会の「ヤングアーティスト」にヴァイオリストとして初めて選ばれる。

公益財団法人ロームミュージックファンデーションの奨励生として、寺井信子、アントワネット・ステイ、ステイヴン・ウィッサーらに師事。

トッパンホールには、14年に「ランタタイム コンサート」で初登場。15年の「ニューイヤーコンサート」では、パンドネオンの三浦一馬らと結成したトリオ・アマリアのメンバーとして、豊やかな演奏を披露した。



上野 通明 | チェロ
Michiaki Usui, violoncello

5歳よりチェロを始め、幼少期からバイオリンでも通じた。これまでに、滋賀県第一、イノナキ・エチエラ、桐蔭学園大学リソリスト・ティピオマコース特待生として和泉白郎に師事する。2015年よりアヴェルドルフ音楽大学にてピーター・ウィスベルグに師事。

09年、13歳で第6回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクール優勝。10年第6回ルーマニア国際音楽コンクール最優秀若手第1位。12年第10回東京音楽コンクール第2位。14年第21回ヨハネス・ブラームス国際コンクール第1位。これまでに新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、ロシア交響楽団は6国内外のオーケストラと多数共演。若谷神子音楽文化奨励賞より第1回Foundation for Youth賞、第3回若谷神子奨励賞受賞。トッパンホールには、15年2月の「ランタタイム コンサート」でシシタコウ・ワイチのチェロ・ソナタに共演白星か、たびたび登場して成長の軌跡を刻んでいる。

プロフィール

プログラムノート

program note



高田彩乃 | ピアノ
Ayano Shinoda, piano

朝陽女子高等学校音楽科を首席卒業。パリ国立高等音楽院、エコー・ノルマルムを首席修了。文化庁新進芸術家海外留学制度奨励員としてライプツィヒ音楽演劇大学にて碩修を修む。2006年にリリースしたファーストCD「Fビュッシー/デュティユー/ラヴェル」は、デュティユー本人からも賛辞を贈られる。

ジャン・フランセ国際音楽コンクール、シドニー国際ピアノ/コンクールなど数々のコンクールにて優勝。入賞。東京フィルハーモニー交響楽団、シドニー交響楽団、ヨハネス・ブルグ管弦楽団等と共演。これまでに、滋賀県美子、ジャン・フランシワ・エッセール、マキレス・ヴァルヴェーニュ、ジャン・クロード・ベスティエ、ゲラルド・ファウツらに師事。トッパンホールでは14年8月「ランタタイム コンサート」にて軽やかなブラームスの世界を聴かせた。また今年2月には、オーボエのワシントン・オルテガ・クワコとのデュオでもたびたび登場する。



北村 剛幹 | ピアノ
Tetsuki Kitamura, piano

1991年度知覚生まれ。愛知県立朝陽高等学校音楽科を経て東京芸術大学に入學。2011年よりベルリン芸術大学に留学。ライナー・ベッカー、伊藤真、エヴァ・ポプウォンらにピアノを、ミッツィー・メイヤーソンにチェンバロおよびフォルテピアノを、エトリゲン・ベッケン少年のためのピアノ/コンクール、オーストリア/コンクール、シドニー国際ピアノ/コンクールなどで入賞。05年第3回東京音楽コンクール第1位ならびに演奏賞大賞(全部門共通)を受賞。

国内外でのリサイタルのほか、「東京の聲」音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・ジャポニ、武生国際音楽祭などに参加。東京交響楽団、読売日本交響楽団など国内外の主要オーケストラとたびたび共演。11年、ソロ・デビューCD「暁なる夜に響く—シューマン「口笛曲」からの選集—」が、14年には第2弾「夜明け」がそれぞれLanternより発売された。

トッパンホールには、11年と13年の「ニューイヤーコンサート」を経て、「エスポワール シリーズ」に登場。14年のVol.2では、オル・ペーター・ヴェンデと名手ダニエル・ゼマツクらと豪華な陣取り、一段と成長した姿を披露。今年4月に、シリーズ最終回でふたたびソロに挑む。

柴田 克彦
Katsuhiko Shibata

実音とは異なる意向で耳目を驚かすトッパンホールのニューイヤーコンサート。近年は聴手の若手が主体となってきたが、今年は特にその意が強い。まず山根一仁と北村剛幹は、現在進行中の「エスポワール シリーズ」で成果を上げている中核的存在。山根は2015年、北村は2011、15年に続く出演となる。また彼らを含めた6人全員が、登場門たる「ランタタイム コンサート」で主演し、その後も主催公演で活躍する若者たち。彼等の活躍をサポートしてきた当ホールを象徴する顔ぶれが揃っている。

さらにブラームスのピアノ五重奏曲は、2014年8月に行われた豊田実乃の「ランタタイム コンサート」の完全な再現。そのとき彼らは、集中力の高い澄んだ演奏を聴かせ、真夏の真昼に熱風を吹き送った。今回は通常の夜公演での演奏を望む声に応えての再演とのことだが、個別に活動中の5人が同じ意を同じホールで時を置いて再演するケースなど滅多にないだけに、これまたユニークな発想といえるだろう。

それにしても今年のプログラムは、例年以上にテーマだ。何しろ新春には有り得ないほどシリアスな楽曲ばかり。特に期待されるシシタコウ・ワイチのピアノ三重奏曲での開始など、新鮮以外の何物でもない。だがこれは1995年生まれの山根と上野通明、1991年生まれの北村の「青年トリオ」による演奏。清静な個性の交差は、ある意味新年の開始にも相応しい。2曲目もいたく深淵なヤナーチェクの《クロイツェル・ソナタ》。ここでは、想像を膨らませるためこうした公演には稀な弦楽四重奏の演奏が目玉される。山根、上野の20歳超と、よりキャリアの長い滝村依里、原麻理子(彼女も本年に続く出演)が、変化著しい意をいかに発揮するのか? 実に興味深い。

そしてブラームスのピアノ五重奏曲。今回のプロに入ると、短調のこの曲が暗い音楽にさえ思えてくる。同曲では、島田が「左手(=ベースライン)をもちと意識して弾いてみます」「(トッパンホール・プレス)より」と語るなど、前回は蓄まっていた変化が顕著でできるし、心新たな対話と融合にも期待が注がれる。

なお明日1月9日、北村以外の5人は、トッパンホールが企画する「きらり☆ふしじみ」ニューイヤーコンサートで、華音奏者ソナタ、シューマンのピアノ五重奏曲等を披露する。同公演は本日は全て異なる演目。この思想的・技術的成果は本公演に反映されるであろうし、中でもシューマンから得た教訓は、両名のブラームス演奏にも還元されるに違いない。

【コンサート・プログラム(7~10ページ)】

プログラムノート

ショスタコーヴィチ:ピアノ三重奏曲第2番 中短調 Op.67

日ソ連の大憲法ドミトリー・ショスタコーヴィチ(1906-1975)が、17歳の第1歳以来久々に作曲したピアノ三重奏曲。「ソレルチンスキーの思い出」との献辞が添えられている。ソレルチンスキーは、20歳以上の賞品に選ばれたソ連の音楽学者・評論家。作曲家の大親友で助言役でもあったが、1944年2月11日、疎開先のノヴォシビルスクで心臓発作を起こし、41歳で急死した。本作は遺作と見られる。チャイコフスキー、ラフマニノフ等に続くロシア的調の「道徳的ピアノ三重奏曲」のひとつとなった。

ただ、作曲家が「ロシアの民族的な主題をもとに」ピアノ三重奏曲を書き始めた」と1943年末に留まっているように、「死をききかたげした」作品ではない。とはいえ1944年2月15日一晩の死の4日後に第1楽章を、同年8月13日に全曲を完成させているので、「悲し」が反映しているのも確か。故人の悼む「第2楽章に前の驚くほど正確な描写を認めました。ショスタコーヴィチが知らないあの姿です」(ファイブ音「ショスタコーヴィチ ある生涯」より)と述べている。

本作は、第2次大戦中の1944年11月、作曲家のピアノ他によりレニングラードで初演され、1946年のスターリン賞を受賞した。

曲は、悲愴なトーンが貫通している上、第4楽章にユダヤ的な音楽が聞かれている。こうした点には、戦争や権力への怒り、ユダヤ人排斥への抗議、ユダヤ人たる故人の追憶といった見方がなされる一方で、作曲家が述べた「ロシアの民族的な主題」への関心や、早出した弟子コレシマンの歌劇「口ネチャイル」のヴァイオリン1(ユダヤ人の幸運を憐れむ作品)の構築完成後に作曲が開始されたこととの関連性も指摘されている。

第1楽章: アンダンテ・モーター。 前奏曲を付けたチェロがハーモニウスの高音で哀しみの旋律を奏する。続くヴァイオリンがチェロより下の音域で緩むのが印象的。この旋律は終楽章のコードにも現れる。全体に暗鬱たるトーンが支配。

第2楽章: アレグロ・コン・パリオ。 ユーモアを添えたショスタコーヴィチ特有のスケルツォ。主題に添えられた「ペザンテ」屋敷への指示が意味深い。

第3楽章: ラルゴ。 コラール風のピアノの上で、両弦楽器が悲愴に歌うバツカリア形式のエレジー。切れ目なく終楽章へ。

第4楽章: アレグレット。 3つの楽想を軸に運ばれ、グロテスクな表情を帯びながらクライマックスを築く。全曲中最も長い楽章。

program note

ヤナーチェク: 弦楽四重奏曲第1番《クロイツェル・ソナタ》

チェコの南部モラヴィアの代表作作曲家レオシュ・ヤナーチェク(1854-1928)は、晩年の10年間に多くの名作を生み出した。その筆は、38歳全下の人妻カミラ・シユテスロヴァーとの老いらくの間。妻との関係がゆめっていた像にとって、これが創作への刺激源となった。2曲の弦楽四重奏曲もまた然り。本作は、チェコ語で書かれたボヘミア弦楽四重奏団の依頼で、69歳の1923年10月30日-11月7日に書かれ、翌年春に修正。1924年10月にプラハで初演された。

ヤナーチェクは、カミラに向けた第2番《ないしよの手紙》と共に、独創性の高い弦楽四重奏曲で音楽的な表現を試みた。「トルストイのクロイツェル・ソナタに靈感を得て」と付された本作は、まさにそのロシアの文豪の小説「クロイツェル・ソナタ」(1890)に着想を得ている。これは主人公が他の妻と密通した書を読してしまふ物語(他の男・ヴァイオリニストと妻が演奏するベートーヴェンの同ソナタが舞台となる)。この四重奏曲は、遠征がもたらす苦悶の物語を描くと同時に、トルストイの禁欲的な恋愛観への批判を込めた音楽とみられている。なおヤナーチェクは、1908年に同じテーマでピアノ三重奏曲を作曲し、改訂後放棄している。

曲は通常の4楽章構成だが、ソナタ形式の楽章はなく、かなり自由な造りがなされている。進行の基本となるのは、第1楽章の冒頭から示される「短促した素材の反響」。さらには「コン・モート」動きをつけての指示が多く、その中でテンポや楽想は絶えず変化していく。また第2、3楽章における「スル・ボン・テ・チェロ」(劇に似て)部分も弾いて全篇的な音を出す(奏法)も効果を発揮。以下は主に、新訂版を出したスメクナ四重奏団のヴァイオラ奏者シユカンパの解説による。

第1楽章: アダージョ・コン・モート。 (劇の提示音)で、「打ちのめされた女性の肖像」。冒頭に3楽章で奏される動き(論理的な役割を果たす)と、チェロで対抗される遅い動きが交錯しながら展開していく。

第2楽章: コン・モート。 (劇の転回点)を示すスケルツォ風の楽章。

第3楽章: コン・モート・ヴィーヴォ・アンダンテ。 (劇の頂点)を示す緩徐な音楽。冒頭の主題は、ベートーヴェンの「クロイツェル・ソナタ」第1楽章第2主題に由来。

第4楽章: コン・モート(アダージョ)・ピウ・モッソ。 (劇の結末とクライマックス)。主要楽想は第1楽章の冒頭主題の変化した。

プログラムノート

ブラームス: ピアノ五重奏曲へ短調 Op.34

ドイツ・ロマン派の巨匠ハンス・ブラームス(1833-1897)の多量の室内楽名曲の中で、30代前半を代表する作品であり、改編を重ねた苦心作でもある。最初のスケッチは、20歳の彼が最初にシューマン家を訪問した直後の1854年から56年にかけてなされた。ただし本格的な作曲は1862年。弦楽五重奏曲の形で一旦完成し、試演も行ったがしっくりこず、1864年2台ピアノ用のソナタに改作した。しかしクララ・シューマンから「オーケストラにちりほめることができそうな作品」と指摘され、同年さらにピアノ五重奏曲へ改作。1865年ワグネルに送られた。なお、自はヘッセン王女アンナに献呈され、王女は遺礼としてモーツァルトの交響曲第40番の自筆譜を贈ったという。

この曲の性格は、多くの自作を放棄したブラームスが2台ピアノ版も商業的な音楽があるにせよ一出版したことに表れている。つまり、音楽自体は2台ピアノの特質である「すべての音が均等に、ダイナミックに響くこと」が企図されている。だがピアノと弦楽隊でこれを成立させるのは難しい。しかもピアノ4弦楽四重奏の形の五重奏曲は、シューマンが1342年に史上初の成功作を出したほど難題だったが、ブラームスはそのような構築で難題を克服し、敬愛する恩人に誇らしい傑作を完成させた。

曲は、充実した響きと豊かな楽想、情緒的かつロマンチックな抒情性をもった。まさにブラームス的なロマンあふれる音楽。楽想も構成も際立っている。

第1楽章: アレグロ・ノン・トロッポ。 3楽章のユニゾンで奏される冒頭の第1主題と、ピアノで出される第2主題を軸に、劇的で多彩な展開を遂げている。

第2楽章: アンダンテ・ウン・ポウ・アダージョ。 天國的な抒情性を湛えた3楽章形式の緩徐楽章。

第3楽章: スケルツォ、アレグロ。 リズム変化が特徴的なスケルツォ。八拍子の調性や「楽前動機」の活用をはじめ、ベートーヴェンの晩年交響曲の第3楽章を彷彿とさせる。

第4楽章: ポウ・ソスタネート・アレグロ・ノン・トロッポ。 ブラームスの室内楽曲の終楽章では唯一の序奏が置かれ、神秘的な雰囲気を感じ出す。序奏は、チェロが出す主題に始まり、ハンガリー風の旋律をまじえてグンダムと進行。プレスト・ノン・トロッポのコードでさらに興奮を高める。

想像を、チカラに。



「人が想像できることは、必ず人が実現できる。」
100年以上も前から想像したロケットや飛行機が、世界の常識になっている今日。私たちは、「想像」の可能性を否定することはできません。いま、私たちが建設するツツとツツが、地球の上でどんな生き残りの時代、これからはあきらめられない時代、人と地球の1+1=1時代です。1999年、2009年、ずっと先まで。私どもは、想像します。たとえ1+1=2計算に思えることでも、やがて世界の常識になる日が来ることに。

人が想像できることは、必ず人が実現できる。
鹿島の都市づくりは、100年先を見つめています。

100年つくる
鹿島